

■ 巻頭言 ■

アジアに見る21世紀

— エネルギーの視点から —

エネルギー・資源学会副会長
大阪ガス株式会社取締役副社長

上 田 耕 造



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはお健やかに初春をお迎えのことと存じます。21世紀への扉がまた一枚開かれました。「21世紀はアジアの世紀」といわれています。来るべき新世紀の姿を見据え、アジアのさらなる飛躍に思いを馳せながら、これからのアジア地域のエネルギーについて私見を述べてみたいと思います。

昨年11月、上海、ジャカルタ、クアラルンプールを廻ってきました。上海へは、大阪ガスが現地のガス会社と合併で炭素繊維等の原料の製造を行っている関係で、時折訪れています。いまだに古い町並みが残っているものの、訪れるたびに新しい高層ビルが完成しており、経済成長と都市の発達のスピードにいつもながら驚かされます。我が国の戦後復興期、高度成長期、近年のバブル期の3つが同時並行的に進行している感すらあります。

クアラルンプールでは、高さ450メートルのペトロナスタワーが完成を目前に控えており、世界最高層のビルの威容に思わず目を見張りました。ジャカルタでも高層ビルの建設の槌音が鳴り響いていました。経済がすっかり成熟段階に入った日本にいとテレビや雑誌などで目にするだけですが、実際に自分の足で歩き、自分の目で見て、まさに到来しつつある「アジアの世紀」を肌で感じる事が出来ました。

このような経済発展に伴い、エネルギーの需要が増加するのは当然のことです。アジア各国では、今後も続く旺盛な経済成長、人口増加を背景に、ASEAN、中国を中心に一次ベースで年率数%を超えるエネルギー需要の伸びが予想されています。IEAでは、日本、韓国、台湾を加えたアジア全体で、2010年には1992年に比べ、約2倍のエネルギーが必要になると予測しています。こうした急激なエネルギー需要の増大に 대응していくことは、アジア経済の持続的成長、ひいてはこの地域の安定を図る上で極めて重要です。また、その際に、地球環境保全の視点を忘れることも許されません。

具体的な動きとしては、現在、エネルギーインフラの整備が大きな課題としてクローズアップされています。特に需要サイドでは電力の伸びが大きく（日本を除くアジア地域では2010年/1992年で約4倍）、電力インフラの整備だけで1兆3000億ドルもの投資が必要ともいわれています。途上国では、従来は発電所といえば独占の国営電力庁が建設していたわけですが、規制を緩和し、民間活力を利用する種々の新しいスキームが各国で採用された結果、主に欧米の資本が多数のIPP（独立発電事業者）プロジェクトを計画・推進しています。

このように活況を呈している電力市場ですが、長期的な視点から考えると、最終的に熱として利用するものも含めて大半のエネルギーを電力の形だけで供給するのが、経済効率はもとより、地球環境保全の視点からも果たしてあるべき姿なのかどうか…。エネルギーの垣根を超えた最適システムの構築が必要になってくるのではないのでしょうか。たとえば、特に人口の集積が進んでいく都市の中で

は、コージェネレーションなど、効率のよいエネルギーシステムを部分的に導入していくことを考える時がいずれ来るものと思います。

現在、大阪ガスはインドネシア政府からの要請に応え、日本政府によるODA資金でジャカルタ地区での家庭用、業務用のガス配給のマスタープラン作りを行っています。現時点ではアジア途上国でのガス配給は存在してもいずれも比較的規模が小さいのですが、これからの都市化の進展の中で、将来、ガス配給もアジア途上国でのエネルギー供給の一つの形態として重要な役割を果たす時が来ると思っています。

先のクアラルンプール滞在時には、西太平洋ガス会議（GASEX）に参加しました。6年前、太平洋の西側に位置する13の国・地域のガス関係者が東京に集まり、ガス技術の交流を始めて以来、4回目の会議でした。前回同様、加盟メンバーに加えて欧米からも多数の参加者があり、世界の成長センターと呼ばれるアジアで高まりつつあるガスへの期待をひしひしと感じた会議でした。

これからは、まずアジア地域全体の需要を踏まえた上で、各国・地域のエネルギー供給のマスタープラン作りが必要です。アジア途上国と一口にいても気候、風土はもとより、経済発展のレベル、エネルギー資源の賦存状況、インフラ整備状況を含めたエネルギーの供給・利用形態などの面で実に千差万別です。それぞれの国・地域に適したエネルギー・マスタープランを作る上で、広い視野から学際的なアプローチを旨とするエネルギー・資源学会は大きな役割を果たすことが出来ると確信しています。21世紀に向け、この分野における会員皆様の活発なご議論を祈念するものであります。

